

「あきたこまちR」 どう報道されたか

小島正美（元毎日新聞記者）

7月4日

第61回アイソトープ・放射線研究発表会

報道の主な特徴

- ◎「あきたこまちR」に**肯定的な報道が先行**した。通常のニュースは、危険性を強調するニュースが先行しやすいが、今回は反対運動に批判的なニュースが先行した。
 - ◎NHKと秋田放送が早くに肯定的に報じた影響力はあったのではないか。
 - ◎日本ファクトチェックセンターが反対派の主張を「誤り」とした意義は大きい。同センターはリスク報道に関する判定を行うのは珍しいが、明確に言い切った。
 - ◎地元紙は反対派の言い分を載せたが、扱いは小さく、反対派に共感してさらに追及する姿勢はなかった。
 - ◎大手中央紙はあまり関心を示さず。共同通信のみが批判的に報じた。全国版への配信はなく、全国的な関心事にはなっていない
- 肯定的なニュースを全国へ伝えることが今後の課題か！

報道の時系列（批判的な報道は毎日新聞の共同通信のみか）

23 年	6 月 29 日	ウェッジオンライン「すごいコメ」（松永和紀氏）	肯定的
23 年	11 月 22 日	秋田放送「あきたこまち R とは」	肯定的
23 年	11 月 27 日	NEWS ポストセブン「画期的なコメの新品種」（清水典之氏）	肯定的
23 年	12 月 25 日	NHK「危険視する根拠のない情報拡散県注意呼びかけ」	肯定的
23 年	12 月 27 日	産経新聞「農家を中傷する誹謗中傷」	肯定的
23 年	12 月 28 日	日本ファクトチェックセンター「危険は誤り」	肯定的
24 年	4 月 25 日	秋田魁「こまち R 計画見直しを」（主に反対意見を紹介）	中立的
24 年	4 月 25 日	河北新報「従来種 選択肢残して」（主に反対意見を紹介）	中立的
24 年	5 月 9 日	毎日新聞「県方針に戸惑いの声 風評懸念」（共同通信記事）	やや批判的

秋田放送 (23/11/22) 冷静・肯定的



【話題の新品種】放射線育苗米「あきたこまちR」とは

NEWSポストセブン（23/11/27）小学館のニュースサイト）＝反対運動を批判）

◎見出し＝福島みずほ議員らの“安全性への疑問”は妥当か

◎本文の締め・・・・・・・・田んぼや畑で育てている農作物の中にも、ごく一部で突然変異が起きているが、それを知らずに我々は食べている。DNAの欠損を気にしていたら、食べるものがなくなってしまう。

長年の技術の蓄積、研究の成果である画期的な新品種に、風評被害や差別につながるようなレッテル貼りをする行為は、慎みたいものである。

◆取材・文／清水典之（フリーライター）

■福島議員を名指しで批判したのは非常に珍しく、強い意思が感じられる

NEWSポストセブン（ネット） 23/11/27

トップ ▶ ライフ ▶ カドミウム吸収を抑えた画期的なコメの新品種「あきたこまちR」 福島みずほ議員らの“安全性へ…

ライフ

2023.11.27 11:00 | NEWSポストセブン

カドミウム吸収を抑えた画期的なコメの新品種「あきたこまちR」 福島みずほ議員らの“安全性への疑問”は妥当なのか

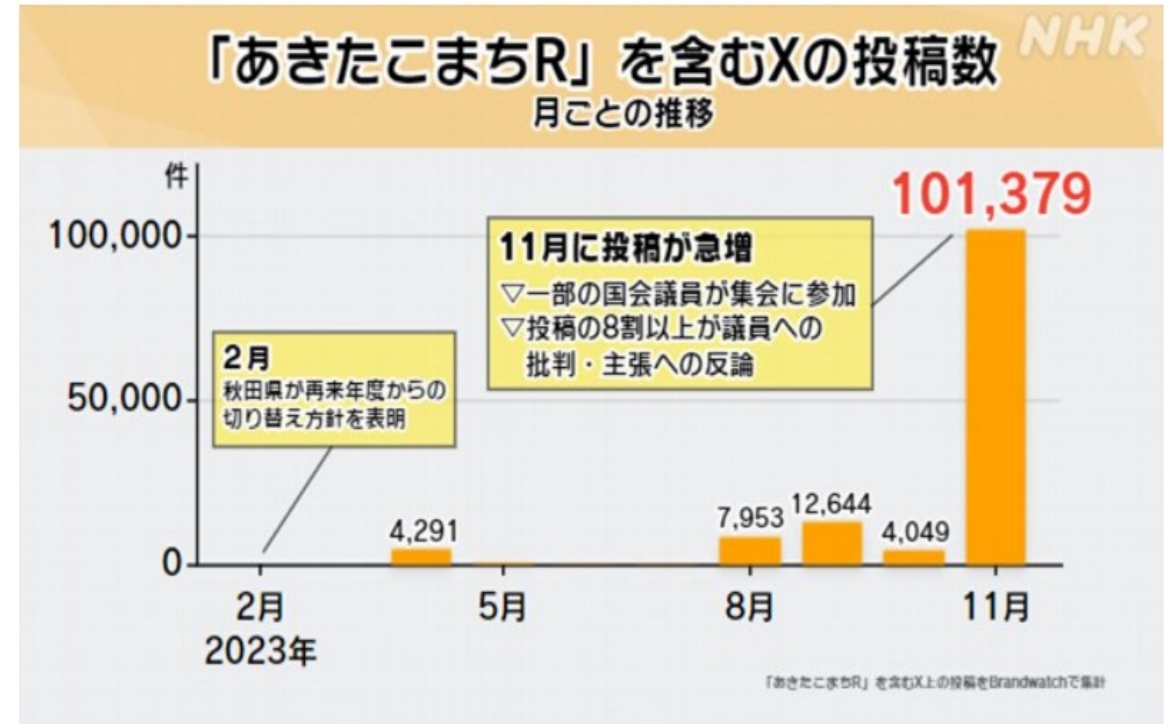
NHK（23年12月25日）県側に立ち、「根拠のない情報が広がる」と反対派に批判的な報道



「あきたこまちR」危険視する根拠ない情報 拡散 県注意呼びかけ

2023年12月25日 16時35分

秋田県で開発された「あきたこまちR」という新しい品種の米が「危険だ」とする、根拠のない情報が広がっています。

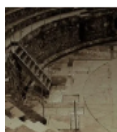


NHKが分析すると、11月に投稿された10万件以上の投稿のうち、8割以上が参加した議員への批判や主張に反論する内容でした。

アゴラ言論プラットフォーム（23/12/27）・NHKの報道に反応。 だれが根拠のない情報を流したのか。名指しで批判。

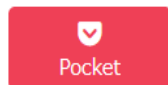
🏠 ホーム > 📰 政治

NHK「あきたこまちRの風評被害が拡散」報道に「誰が広めたのか言わないの？」



[アゴラ編集部](#)

© 2023.12.27 10:00



NHKが、秋田県で開発された「あきたこまちR」が「危険だ」とする根拠のない情報が広がっているということを取り上げました。



kamekamesoda

@kamekamesoda · [フォローする](#)



根拠のないデマを流したのは社民党の福島みずほですってコミュニティノートがいい仕事してる

閲覧したユーザーが他のユーザーにとって役立つよう背景情報を追加しました

記事内で名前が伏せられていたのは、福島みずほ氏です

[kseed.jp/news/radiation...](#)

[twitter.com/mizuhofukushim...](#)

NHK 2 回目の放送 (24/3/27) 根拠のない情報が広がったため)

**NHK**

 NHKについて

 コロナ・感染症

 ニュース

 番

NEWS WEB 新着 天気 動画 特集▼ 社会 気象・災害 科学・文化 政治 ビジネス 国際 スポーツ 暮らし

秋田 NEWS WEB

◀ 秋田の

コメの新品種「こまちR」の理解促進で情報発信を強化へ

03月27日 07時32分



「あきたこまちR」
県が情報発信強化へ



県

事業費1.300万円余を

秋田県で開発された新たなコメの品種「あきたこまちR」について、SNSを中心に根拠のない情報が広がったことから、県は新年度、生産者や消費者に向けた情報の発信を強化することとしています。



産経（23年12月27日） 名指しで批判

「放射線」に過剰反応 コメ新品種「あきたこまちR」の開発手法に誹謗中傷、福島瑞穂氏も

2023/12/27 18:51

✕ ポスト

✕ 反応



奥原 慎平 政治 | 政局



秋田県が開発したコメの新品種「あきたこまちR」を巡ってSNS（交流サイト）で農家を中傷しかねない発信が相次ぎ、県が「冷静な判断と行動」を呼びかける事態に発展している。「R」は放射線による品種改良で開発されたもので「放射線」に過剰反応したためとみられる。一般的な品種改良の手法ではあるが、一部野党の国会議員も安全性を問題

秋田放送（24年5月23日） 肯定的。種子農家も顔出し

「あきたこまち」から「あきたこまちR」へ 種もみの栽培始まる

5/23(木) 19:21 配信



ABS秋田放送



日本ファクトチェックセンター(23/12/28) 明確に「誤り」



あきたこまちRは「放射線育種米」で危険だ、は誤り【ファクトチェック】

秋田県の特産米の新品種「あきたこまちR」について「放射線を照射した危険な米」などの言説が拡散しましたが、誤りです。農産物の品種開発の過程で放射線を照射する事例は他...

By 宮本聖二 — 2023年12月28日

プレジデントオンライン (24/1/24) 肯定的

ビジネス

#農業

#社民党

2024/01/24 6:00

水俣病のように無視されてはいけない?…「あきたこまちR」の"風評加害"をあおる国会議員のあきれた言い分

なぜ「放射線育種」という言葉に過剰反応するのか

PRESIDENT Online



山口 亮子

ジャーナリスト

地元紙・秋田魁はやや批判的トーン

秋田魁新報（23/12/4）。見出しに「不安」「疑問」

【あきたこまちR】兵庫でも不安や疑問の声、秋田県も情報発信を強化

🔒 有料記事 2023年12月3日 掲載 2023年12月4日 更新

カドミウム低吸収性品種は他県でも導入が検討されている。あきたこまちRの育種にも使われたコシヒカリ環1号の導入を検討している兵庫県では安全性を不安視する声が寄せられ、県が見解を公表。秋田県でも県議会の意見募集に多くの意見が寄せられたことなどを機に、ホームページや説明会を通して情報発信を行っている。

※写真クリックで拡大表示します



秋田魁の記事（23/12/8）。大潟村長は慎重派か

あきたこまちR「当分は選択可能がいい」 大潟村長、県の切り替え方針に見解

🔒 有料記事 2023年12月8日 掲載

秋田県大潟村の高橋浩人村長は7日、現在作付けしているあきたこまちを、土壌中の有害物質カドミウムをほとんど吸収しない新品種「あきたこまちR」へと2025年に全面的に切り替えるとした県の方針について、「当分の間は種子を選択できるようにした方がいいと考えている」との見解を示した。

※写真クリックで拡大表示します



秋田魁 (24/4/25)



◎記事は反対派の言い分をほぼ乗せた形。

記事＝農家や消費者が選択できるようにしてほしい。安全性への不安をもつ消費者のことを考えてほしい。消費者不在で計画が進む。

■反対派の言い分を載せた記事で地元紙のゆえか。扱いは2段見出しながら地味。

河北新報（24年4月25日）＝事実を淡々と報じた

あきたこまち
従来種と新品種
「選択肢残して」
生産者ら会見

秋田県が2025年に導入するコメの新品種「あきたこまちR」を巡り、県内の生産者有志らでつくる市民団体が24日、県庁で記者会見し、従来のあきたこまちな生産継続を求めた。

「『あきたこまちR』をみんなで考える会」（秋田市）の田口則芳代表（73）は、県産米の主力品種をこまちRに全面的に切り替えること

とに「従来品種を続けたい農家の選択肢を閉ざす。同時に消費者の選ぶ権利を奪うことにもなる」と県計画の見直しを訴えた。

こまちRは土壌中の有害物質カドミウムをほとんど吸収しない特性がある。コシヒカリに放射線を1度だけ照射したコシヒカリ環1号と、あきたこまちを繰り返し交配した。県は供給する種子を全てこまちRに切り替える方針。

考える会は昨年度、県内の25市町村議会に県計画の見直しを求める意見書を提出するよう陳情し、うち7議会が採択したという。田口代表は「県は各市町村議会でも意見が分かれていることを重く受け止め、計画の見直しを検討してほしい」と話した。



「あきたこまちR」への全面的な切り替えの見直しを訴える田口代表（左）ら

◎反対運動の主張

①従来品種を続けたい農家の選択を閉ざす。

②消費者の選ぶ権利を奪う

③県内の25市町村議会のうち、7議会が県の計画を見直す意見書を採択した。

■記事は、ほぼ反対派の言い分を載せただけ。ただし扱いはベタ扱い。反対派に配慮を見せた地元紙のゆえか。

週間金曜日と毎日新聞
批判的なトーン

印やく氏の寄稿（24年1月26日号）

【くらし 食】・「コシヒカリ環1号」と「あきたこまちR」 なぜ今、放射線育種で米を作る？ | 印鑰智哉

週刊金曜日

編集委員

雨宮処凛・宇都宮健児・想田和弘・田中優子・崔善愛・本多勝一

●次号予告:2024年1月26日号(第1457号)

【能登半島地震】●地震列島の原発の安全性に、根本的な警告が発せられた | 石橋克彦【新龍中国】●国際社会と台湾社会、台湾総統選をめぐる「二つの落差」 | 野嶋剛【特集 地域でつくる いつもの居場所「こども食堂」】

●湯浅誠さんに聞く 望まれる「官民共同連携」の形 | 秋山晴康 ●こども食堂は支援の入り口で大切なのは根本的解決 鼎談 加藤雅江×近藤博子×友澤ゆみ子 | 聞き手・まとめ 秋山晴康 ●子どもたちを見守り育てる それぞれの取り組み 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク・栗林知絵子さん／ふれあい工房・山本裕一さん／こども食堂北海道ネットワーク・松本克博さん | 秋山晴康【くらし 食】●「コシヒカリ環1号」と「あきたこまちR」 なぜ今、放射線育種で米を作る？ | 印鑰智哉【『金曜日』で逢いましょう】●大庭美代子さん | 秋山晴康【好評連載】●「働く」からいまを見つめる | 竹信三恵子 ●これからどうする？ | 田中優子 ●青木理の温泉という悦楽 ●半田滋の新・安全保障論 ●あの人の独り言 | 松崎菊也 絵空事／石倉ちょっき ●きんようカレンダー12月 | 先川信一郎 ●【提

致死量で脅す



INYAKU Tomoya 印鑰 智哉

@tomo_nada · フォローする



返信先: @tomo_nadaさん

放射線育種とは人間の100%致死量7グレイをはるかに超える放射線（40～300グレイ）を照射して突然変異を引き起こして新品種を作り出そうとするもの。盛んなのは中国と日本。米国ですらあまりやっていない。主食のほとんどでやろうというのは日本くらい。これで本当にいい？ #放射線育種米

午前9:32 · 2023年4月13日

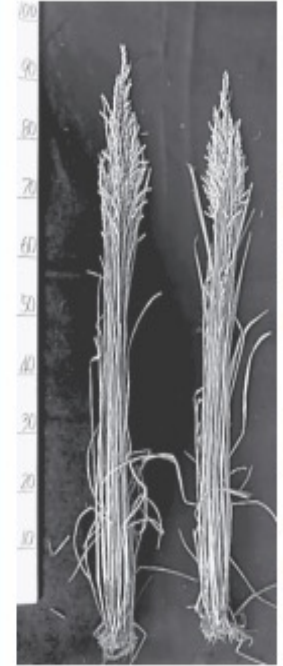


毎日新聞。なぜ風評被害の懸念？

年(令和6年)5月9日(木)

毎 日 新

県と農業環境技術研究所(現・農研機構)が共同開発。県によると、味や収穫量など、品質は従来のあきたこまちと同等。コシヒカリの種子に放射線を一度照



「あきたこまちR」(左)と「あきたこまち」
—秋田県農業試験場提供

あきたこまちRは、1984年に登場し、全国的な人気を誇るブランド米「あきたこまち」。秋田県は、2025年から県内生産分について、土壌中のカドミウムをほとんど吸収しない新品種「あきたこまちR」に切り替える方針を打ち出した。農家の負担軽減につながるが、期待されるが、他の作物への風評懸念など、一部で戸惑いの声が上が

る。あきたこまちRは、県と農業環境技術研究所(現・農研機構)が共同開発。県によると、味や収穫量など、品質は従来のあきたこまちと同等。コシヒカリの種子に放射線を一度照

射し突然変異を起こして開発された「コシヒカリ環1号」の、カドミウムをほとんど吸わない性質を併せ持つ。環境省によると、国内各地には過去の鉱山開発などの影響で土壌中のカドミウム濃度が高い場所が残る。農用地土壌汚染対策地域として土を入れ替える客土などが実施され、22年末時点で、94%以上で対策が終わった。カドミウムは天然に

存在する重金属で、野菜や魚にも低濃度ながら含まれる。濃度が高い食品を長年にわたって摂取すると腎機能障害などを引き起こす恐れがある。日本で食品由来の摂取割合が最も高い米では、食品衛生法で1kgにつき0.4mg以下とする基準値が定められている。秋田県は、基準値を超えた米について年平均で約400トを買い

有害物質対策 県方針に戸惑いの声

25年から新あきたこまち

上げて処分。県生産米の0.1%に当たる。農家も作物の吸収を減らすため、稲穂が出る時期に長期間田んぼに水を張る特殊な管理方法を取ってきた。

県は、新品種への切り替えでこうした負担の軽減につながり、将来基準値が厳格化された場合にも対応できると有用性を強調する。ただ対策が必要な田んぼは一部。仙北市であきたこまちを生産して

が分からない」と話し、慣れ親しんだ従来品種の継続を望む。

農作物風評懸念

大潟村あきたこまち生産者協会の涌井徹会長は技術革新の成果と歓迎する一方「拙速に進めると『秋田は農業

に適さない』との風評被害を招きかねない」と他の農産物への影響を懸念。国主導で全国一律の導入を検討すべきだと訴える。

日本大の長谷川功名善教授(農学)によると、「ファイトレメディエーション」と呼ば

れる専用の稲などの植物にあえてカドミウムを吸収させて、収穫後に廃棄する逆の対策もある。根本的な解決につながり得るが、収穫と廃棄を繰り返す必要があり、時間がかかるのが難点だという。長

谷川さんは「豊かな農

地を残すため、農家の収入を保証しながら多様な対策を検討すべきだ」と話した。

新緑と清

青森・奥入瀬

青森県十和田市の奥